

地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

JAMシニアクラブニュース

第131号

発行日 2018年7月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本部内 〒105-0014 電話03-5440-7388 fax03-5440-7389



退職者連合定期総会

生き生きと暮らせる安心社会へ

行動強める退職者連合の方針を確認

退職者連合は7月12日、連合会館で第22回定期総会を開催した。総会には188人が出席。JAMからは幹事の大山会長、本部から大野、豊泉、平木、地方代表の畑山(千葉)、鈴木(富山)、中野(兵庫)代議員が出席した。総会では昨年の活動を退職者連合の組織力と運動が強化された年と総括。そのうえで「歪んだ政治状況を正し国民生活最優先の政治に変える行動を強めて行く」とする運動方針を確認した。

退職者連合の人見会長は「嘘と付度を繰り返す安倍政権に国民は納得していない。しっかりと究明していくこ

とが必要だ」と述べ、働き方改革の採決を強行、会期延長したうえで豪雨災害対策よりもカシノ法案の審議を優

先する姿勢を批判。「安倍政権に鉄槌を下す機会がやってくる統一地方選と参議院選を全国で闘っていくこ

と挨拶した。来賓の相原連合事務局長は西日本豪雨災害へ連合として打てる対策を打って行くことを

確認したと報告。そのうえで「働き方改革では野党の皆さんと連携した取り組みができた。審議会で決めることが山ほどあり、しっかりと対応していく」ことを強調した。

また、長妻代表代行(立憲) 玉木共同代表(国民) 又市党首(社民)は「安倍首相は首相席からヤジを飛ばしまくりに、歴代首相がサミット前など野党の意見を聞く機会を持った

原発再稼働容認転換を危惧

柏崎刈羽原発再稼働検証に注視を

新潟シニア会長 磯田 義則

新潟県民は福島原発事故による放射能汚染の教訓から世界最大の柏崎刈羽原発を抱える地元として再稼働に根強い反対があります。こうした背景から2016年10月の前回知事選挙では共産・社民党などが推薦した米山候補が

柏崎刈羽原発の再稼働に反対の立場を明確にして与党候補を大差で破り勝利しました。米山前知事は公約に基づき原発の再稼働は福島原発事故の原因など「3つの検証」を行

うとして再稼働はできない状況となり、私もこの姿勢を評価していましたが、米山前知事は知事の路線継承を公約としたが薄れ、反原発票の一部が花角候補にかねばなりません。

主張



選挙の争点は柏崎刈羽原発の再稼働問題と安倍政権の是非を問う、全国でも注目の選挙となりました。原

原の再稼働問題では花角候補も前知事の路線継承を公約としたが薄れ、反原発票の一部が花角候補にかねばなりません。

が、安倍首相はその機会すら作らない。国民に向き合う気持のない総理だ」と述べ、おかしな政権は変えなければいけないと強調した。討議では「豪雨の被災者に仮設ではなく終の棲家となる住宅の確保が必要」「経験は力。女性代議員を確保し女性に経験させてほしい」との発言に対し、菅井事務局長は「国交省に終の棲家となる住宅の確保を要請する」「女性枠でなく女性の加入促進と合わせて積極的に進めていく」と答えた。その他に組織拡大、憲法問題への発言があった。すべての議案を承認後総会宣言を採択し閉会した。

JAMシニアクラブ定期総会

- 日時 2018年9月5日(水) 13時30分
- 場所 友愛会館9階 大会議室
- 議事 ①2019年度活動方針案
②2019年度予算案
③2019年政策実現活動推進

お知らせ

当月号の機関紙に掲載出来ないほど多くの地方から寄稿が寄せられています。シニアクラブのホームページには随時掲載していますのでホームページの活用もお願いします。



19回目となるJAM東京シニアクラブ「東京街歩き」、今回はちよと趣向を変え、JAM東京千葉と強い協力関係にある「田の上いくこ」都議会議員にご尽力いただき、東京都議会議事堂と展望室の見学会として、5月14日に実施した。午前10時JR「新宿駅西口交番

京 街歩きの趣向を変えて 都議会議事堂と展望室を見学

水間 英夫 通信員

前」に集合。晴天に恵まれ、ご夫婦を含む53人が参加した。

議事堂までは雨上がりの緑が映える気持ち良い散策となり、議事堂ロビーで見学者カードを着用し、第2会議室に移動。長岡会長及び田の上議員の挨拶の後、職員の方から議事堂の概略や見学の注意事項を受け、早速見学コースに移動。まずPRコーナーで、都議会について紹介を受けた

都 第17回グラウンドゴルフ 優勝は藤田雄三さんが獲得

伊藤 忠男 通信員

恒例となったJAM京都シニアクラブのグラウンドゴルフ大会を5月24日(木)、長岡京市の村田機械神足グラウンドにて開催した。

前日の雨の影響が心配されたが雲一つない快晴とグラウンドもほこりがたつ心配のない

適度な湿り具合を持ち、さわやかな風の吹く絶好のコンディションで59名の参加者が、午前午後32ホールの競技を楽しんだ。

今年参加者の最高齢が88歳、80歳以上の参加者が全体の三割近くを占める17人で60歳



代の参加者6人をはるかに上回る元気な姿を見せていただいた。優勝はトータル78の

神奈川 介護士、ヘルパーの労働現場から 見た高齢者の問題について学習

加藤 照雄 事務局長



会社や雇用形態の枠を超えて結集した労働組合「日本介護クラフトユニオン」から染川事務局長をお招きした。

講演会は、5月18日(金)神奈川県労働文化センターに幹事、各シニアの代表30名余りが参加。介護保険制度は2000年4月に施行され、様々な課題に直面している。これらの問題を過去1年間の新聞記事のコピー等でまとめられて講演された。

神奈川シニアでは、高齢者福祉問題を考える視点を変えて介護の現場で働かれている方々の立場で講演を依頼。講師には介護従事者が

スコアで元京都機械・京都シニアOBの会の藤田雄三さん(76歳)が獲得した。

藤田さんは地元向日市で週2回のラウンドをこなし、大会も毎回参加される愛好者で日頃の実力を発揮された。来年は80歳代は言うに及ばず、90歳代の参加を期待しつつ、60歳代の参加者が増えるよう、新入会員の拡大にも注力したいと考えている。

追い込まれている。介護職員は仕事へのやりがいを持っていて、ものの、給与実態が改善されず人材不足の改善につながっていない。介護職員の待遇を一般労働者並みに改善し介護職員を確保しなければならぬ。介護士やヘルパーの方々の労働現場の状況を改善することは、優秀な介護士やヘルパーの方々が集まり、介護利用者への介護内容が良くなる。「保険あってサービスなし」、現状のように人手不足が続けば、介護保険制度が成り立たなくなると講演された。

神奈川シニアは県連合への政策要求として①地域包括システム構築に対し現状は地方自治体の政策が追い付いていないことが明らかであり、要支援1・2の総合事業移管に反対する、②総合医の育成と訪問診療医の普遍化、かかりつけ薬局制度の確立、③老々介護の限界による殺人事件の発生が増え解決には特養の増設が必要との3点の要請をしている。